

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「修飾語を使って書こう」 教材名「修飾語を使って書こう」

2 単元の目標

修飾する語と修飾される語の関係を理解できる。 相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直せる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①修飾する語と修飾される語の関係を理解している。（〔知識及び技能〕(1)力）	①「書くこと」において、相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直している。（B(1)工）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

修飾する言葉がどの言葉にかかるかを確かめ、伝えたい様子に合わせて文を書き換える。詳しい語を増やすこと自体を目的にしない。 学習指導要領のB(1)工を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)力を、言語活動の中で確かめる。 年間計画の重点は知識・技能であり、本案ではそれを使う言語活動の関連項目としてB(1)工を加えている。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

独自例「犬が走る」に「白い」「ゆっくり」を加え、どの言葉を詳しくしたか矢印で結ぶ。書き換え前後を読んで相手が想像した違いを確かめる。 おおむね満足できる状況は、相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直しているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○基本の文で分かることを確かめる。知らせたい様子を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	2 （本 時）	○修飾語の係り先を比べる。自分の文を目的に合わせて直す。	知①・思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直せる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「どの言葉を詳しくすると、知らせたい様子が伝わりますか」 【めあて】修飾する言葉がどの言葉にかかるかを確認、伝えたい様子に合わせて文を書き換える。 〈予想される児童の反応〉 ・走った速さを知らせたいから、走るを詳しくする。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「どの言葉を詳しくすると、知らせたい様子が伝わりますか」 独自例「犬が走る」に「白い」「ゆっくり」を加え、どの言葉を詳しくしたか矢印で結ぶ。書き換え前後を読んで相手が想像した違いを確認する。 自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・走った速さを知らせたいから、走るを詳しくする。 ・色を知らせたい時は物の名前に言葉を付けたい。 ・付ける場所で伝わるが変わる。	独自例「犬が走る」に「白い」「ゆっくり」を加え、どの言葉を詳しくしたか矢印で結ぶ。書き換え前後を読んで相手が想像した違いを確認する。 想定するつまずき：修飾語を足しすぎて中心が読めない、どの語にかかるか分からない位置に置く。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手や目的に合う表現かを読み返し、修飾語の位置や使い方を直している。(発言と学習記録) ◎知① 修飾する語と修飾される語の関係を理解している。(〔知識及び技能〕(1)力)(使った言葉・音読や表記の確認)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・付ける場所で伝わるが変わる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確認する。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「どの言葉を詳しくすると、知らせたい様子が伝わりますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

